

城端線・氷見線 L R T 化事業費調査の実施状況について

○調査概要

城端線・氷見線の全線を電化し、低床型の L R T 車両を導入した場合の事業費等を複数の運行頻度に応じて明らかにするための調査を実施

○主なもの

1 電化設備

- (1) 城端線・氷見線の線形を踏まえ、必要となる架線柱の数や架線延長、配置等整備費算出作業を実施
- (2) 変電所については、路線延長を考慮し、必要な個所数や規模等整備費算出作業を実施
- (3) 電化に伴う、各駅の電気容量の増加を考慮し、受電設備等の整備費算出作業を実施

2 駅・ホーム改良

- (1) L R T 化により低床ホーム（ホームの高さが低くなる）となることから、駅舎からホームまでの傾斜を考慮した、スロープ設置個所やスロープ長等整備費算出作業を実施
- (2) 利用者が安全に上り線、下り線を横断できる、ホーム構内通路の配置等整備費算出作業を実施
- (3) 運行頻度を富山ライトレール並みとした場合等における、行き違い施設（分岐器設置等）の新設個所等整備費算出作業を実施
- (4) 行き違い施設の新設にあわせて、必要となる駅構内施設や設備の改修等に伴う付属設備等整備費算出作業を実施

3 信号・通信設備

- (1) 行き違い施設の新設に伴い、必要となる信号機の整備数や信号付属設備等整備費算出作業を実施
- (2) 信号機の増設に伴う、既存の信号制御システムに与える影響の把握（影響の規模に応じてシステムの改良等の事業費を算出）

4 車両関連

- (1) 城端線・氷見線の現行の輸送人員を踏まえた、L R T 化に伴い、必要となる低床式車両数等整備費算出作業を実施
- (2) 必要となる低床式車両を留置するスペース等整備費算出作業を実施

○調査とりまとめ

秋頃を目途にとりまとめ